

だんじり会館のあり方等検討委員会 議事概要

審議会名 第5回だんじり会館のあり方等検討委員会
 日時 2025（令和7）年2月25日（火）13:30~15:45
 会場 ハイトピア伊賀 5階 多目的大研修室
 出席者 【委員】
 小林慶太郎委員長 福田良彦副委員長 後藤渡委員 菊野善久委員
 中村晶宣委員 重藤邦子委員 山口真由子委員
 【祭り町関係者】
 11人
 【伊賀市/事務局】
 産業振興部長 堀川敬二 産業振興部次長 福山朋宏
 観光戦略課長 山田靖子 同課主幹兼誘客推進係長 辻本康文
 同課主幹兼事業係長 川合理恵
 傍聴者数 5人

.....

【第1部】

1 開会あいさつ

伊賀市産業振興部長

2 だんじり会館のあり方等に関する中間答申を踏まえた意見交換

(1) 意見交換の趣旨について

（小林委員長） はじめに意見交換の場を設けた趣旨を説明する。資料1の2頁に検討の経緯が書いてある。昨年9月、前の市長から諮問があり、だんじり会館のあり方等について、我々7名の委員で、これまで4回の会議を開き、検討を進めてきた。委員の内訳は6頁に掲載されている。

詳細は後で確認いただきたいが、我々は、大きく5つの観点から検討を行ってきた。それは2頁の最下段に書いてある。一つは「文化」か「観光」か。二つ目は「無形民俗文化財（行事）としての維持・継承」。三つ目は「有形文化財倒しの保全・保護」。四つ目は「文化振興によるまちづくりの全体像」。五つ目は「施設の運営（維持管理）及び地理的な視点からのあるべき姿」である。

四つ目と五つ目は、だんじり会館という館そのものの持つ機能やあり方、或いは立地も含めて考えていこうということだが、これらを考えるにあたり、だんじり会館はそもそも何のためにあるのかについては、当然、だんじり文化やダンジリ行事の維持・継承、発展のためであるという考え方もできる。そうすると、我々はこれまで色々な資料を基に検討してきたが、実際にダンジリ行事を担ってい

る祭り町の皆さんの生の声や、どのような考えで行われているのかをしっかりと把握し、それを踏まえて、だんじり会館という館のあり方も検討しなければいけないということから、今回、祭り町の皆さんにお集まりいただいた。

今後、皆さんのご意見をうかがった上で、最終答申として取りまとめ、市長に提言をしていきたいと考えている。この議論を深めていくにあたり、我々が市長に提出した中間答申に書かれている内容が、皆さんの考えと一致しているのか、或いはだんじり行事の現状ときちんと合致した話になっているのかを確認するため、中村委員にご推薦いただいた祭り町の皆さんに集まっていただいた。どうぞ忌憚のない意見をいただきたい。

(2) 中間答申書の趣旨について

(小林委員長) — 中間答申書の説明 —

資料 1・資料 2 に沿って説明

(小林委員長) ここまでで、何か質問はあるか。

(祭り町関係者) 意見無し

(3) 意見交換

(事務局) — 意見交換の進め方を説明 —

(小林委員長) お一人 3 分以内と限られた時間であるが、円滑な進行にご協力をお願いしたい。

(祭り町関係者①) 上野文化美術保存会参与で、向島町の者である。

今回、委員会に参加するにあたり中間答申を拝見したが、正直申し上げると認識の隔たりを感じた。それは、文化か観光のどちらに軸足を置くかという項目である。

全国の祭の起源は当時の文化の反映であり、その進化には数多くのドラマを秘めている。上野天神祭は 1690 年再興と伝えられ、菅原神社の秋祭りに合わせ城主から与えられた能面をもとに、三之町筋では、当時の風流の影響を受け、面をかぶり仮装行列を始めた。本町筋や二之町筋の町では、京都・滋賀や近郊の地域の祭りを参考にした鉦を造り、華やかな江戸文化の豪華絢爛なだんじり 9 基の行列参加へと進化を遂げ、明治、大正、昭和、令和へと伝えられてきた。昭和 31 年県指定、平成 14 年には国指定重要無形民俗文化財、平成 28 年に全国 33 団体と共に全国山・鉦・屋台行事としてユネスコ無形文化遺産に登録された祭りであることを忘れてはならない。無形文化財の維持継承には、行政から支援を受け、祭り町の町方は地道な努力を続け、現在に至る。

祭礼の人出は、私が子供の頃は主催発表 5 万人だった。平成 29 年以降、日程が変更されて土日開催となり、令和元年には 19 万人の人出を集めた。昨年の祭りは、3 日間のうち 2 日が雨で結局 1 日だけだったが、それでも 15 万人の人出を集めた。ユネスコ登録後は、市や一般の方を含め、ホームページや SNS により

広報の拡大が行われてきたが、最大の施設であり広告塔としてのだんじり会館の役割は極めて大きく、評価されるべきである。3日間の祭りにこれだけの観光客を集める事業であることを踏まえ、今後の会館については、場所、規模、展示内容、展示方法等を検討した委員会となることを期待したい。文化は、育み、伝え、広げ、維持・継続し、それを活かすことによって初めて観光に繋がるものだと考えている。

(祭り町関係者②) 鬼を出す三之西町の祭礼委員で長年携わってきた者である。

私は過去に観光課長として、だんじり会館の運営にも関わってきた立場であるため、言いづらい面もあるが、密かに言いたい。中間答申で少し気になった点がある。

文化か観光かどちらかということを議論がなされているが、祭り町の人間として、文化であり、観光であり、融合したものだと思っている。どちらに軸足を置くか、そういう議論はやめてもらいたい。町によっては本当に子供がいなくなっている。どうすれば子供に祭りに出てもらえるかと苦慮している。鬼町でも、他所の町から応援してもらい、やっとのことで成立しているのが本音である。だんじり町においては曳き手が殆ど居ない。町の人は4、5人しか出ていない。残りの百何人は、手伝いの人で賄っている。文化か観光かとかそんな事ではなく、担い手が居ない現状をこれからどうしていくかが、非常に心配である。

そのような中、これからだんじり会館をどのように活用するかということだが、だんじり会館に携わっていながら思ったのは、だんじり会館は対話する機能が無い。一方通行で、質問もなければ、答える人もいない。そういう機能をどこかに持たなければいけない。なぜなら、私は、ここ数年間、上野西小学校3年生を対象に、毎年、だんじりや祭りについて講演をしている。子供たちに、実際にほら貝の音を聞かせたり、拍子木を鳴らしてびっくりさせたり、先生を鬼に仕立てて面を付けたりしてもらおうと、子供たちはものすごく喜ぶ。そういった実体験をしてはじめて祭りの良さが分かるので、その子供たちは絶対に忘れることはないと思う。だんじり会館には、そういった体験機能があれば良いと思う。だんじり会館かどこですか知らないが、体験、経験、触れ合うことを大事にした機能を持つ施設であって欲しい。

(祭り町関係者③) 上野福居町自治会長と上野西部地区住民自治協議会会長を兼ねている。

「観光か文化か」という観点では、祭り町の者として、ずっと続いてきた文化をどのように継承していくか、毎年祭りをどうにかして実施できるようにということを考えている。一方、観光については、町の者が、地域の財産を観光に活用することまで出来ないと思う。色々な文化財を活用し、観光の側面から新しいことを生み出していくとなれば、どこかがその機能を持ってもらわないと、なか

なか難しい。委員会で、だんじり会館のあり方だけでなく、祭りの担い手の事、色々な事を話し合われたというのは、大変ありがたいことである。

また、だんじり会館が今後どうなるかについては、来訪者が、祭りの日以外にも祭りに触れられる機会が必要だと思う。それは会館なのか、或いは掲示板なのかは分からないが。各祭り町には、祭りの時に使っていないがかなり古い文化財や、幕も含め、色々な財産が残っている。そういうものを見てもらう場は、町だけではできない。会館を今後どんな内容にしていくのか、場所はどこにするかという議論が出てくると思うが、そのようなことも総合的に考え、住民の声も聞きながら進めてもらいたい。

(祭り町関係者④) だんじり町の上野小玉町の祭礼委員長で、上野文化美術保存会の学芸員を担当している。

この議論では、だんじり会館という建物と、だんじり文化をどのように継承し見せていくかを、きちんと分けて考えるべきである。

まず、建物については、平成 27 年 3 月、公共施設最適化計画において縮小の方針になっている。議決を経て方針が出されたのだから、ある程度それに則って進めていくべきである。建物の意匠は非常に良いが、美術博物館が旧桃青中学校跡地に整備されるなら関連性があり、現在の場所に何らかの施設があれば有効であると考えられたが、市長が交代し、桃青の丘はどのような状況が分からなくなった。逆に、伊賀鉄道より南側にという話も出ている。もし、そうであれば、現在の建物は維持管理が大変なので、縮小する、或いは取り壊しも含めて検討していく、又は売却することも考えられる。厳しい財政状況を鑑みると、伊賀市自体が身軽になるようにしなければならない。

一方で、だんじり文化をどのように継承し見せるかについては、担い手を増やすため、市民に、だんじりや鬼行列を見てもらい、知ってもらふ施設は必要だと思う。そういう意味では、現在検討されている美術博物館と共に学芸員を置いた施設で、適切に見せるのが良い。

また、幕を半年間吊るしたまま展示しておくのはもっての外である。レプリカやプリントでもよいし、中国製であっても、展示にあたり見劣りはしない。最も懸念される幕については、レプリカの展示に変えていくべきである。現物を展示するなら相応の対応が必要である。さらに、祭り町にとって一番心配されているのは、引退した幕の保存や保管場所である。美術博物館とセットで考える、或いは、修理する場所も必要になるので、それらを総合的に考えていく必要があると思う。

また、だんじり会館のあり方については、施設に関することだけではないので、産業振興部だけでなく、資産経営課や文化財課、教育委員会についても、本来、もっと主体となり、この中へ入って議論すべきである。

(祭り町関係者⑤) 鬼町である徳居町の自治会長と四鬼会会長を担当している。

だんじり会館は、だんじりが主体で展示されているので、鬼町としてあまり興味がない。お金を払って見に行ったこともない。春と秋に、だんじりの入替があるとき応援で行っているが、収益が上がるような施設とは言えない。

「文化」と「観光」の話が出ているが、昔から続いている祭りを、どうにか継承しようとしているのが現状である。そこに色々な形で「ああしろ」「こうしろ」と言われるたびに、町が疲弊していつてしまう。担い手も高齢化し、子供もいなくなっている、町主体でやっていくことは、もう限界を感じている。

市役所が中心になってこのような議論をしているのだから、やはり、伊賀市を知ってもらうための象徴的な祭りなので、伊賀市民に知ってもらえるような機能があれば良いと思う。そして、伊賀市は移住施策に色々取り組んでいるのだから、伊賀市が好きで伊賀市に来たい、戻って来たいという人に広く知らしめるには、祭りに愛着を持ってもらうのが一つの方策だと思う。

申し訳ないが、だんじり会館については興味がない。

(祭り町関係者⑥) 鬼町である相生町の者である。

中間答申について感じたことを述べる。一つ目は、だんじり会館がこれまで担ってきたものを今後も担うのか。違うものを担うのか。それとも、老朽化を理由に売却をするか。いずれかだと思う。

二つ目は、だんじり会館の印象は良いという話もあったが、オープン当初は不評だった。「入口が分かりにくい、暗い、入りづらい」という声があり、急遽、大きな提灯を取り付けた。今は見慣れたので町の人あまり感じないと思うが、初めて訪れた人は、同じような印象を持っているかもしれない。だんじり会館がオープンしてから、イベントや企画展をしたり、リニューアルしたという話は聞いたことが無い。展示物を映像や音楽と共に能動的に見学してもらうという考え方の運営だったと記憶している。去年の祭りの足揃えは天候不順で中止になったが、当町では、鬼と一緒に写真撮影ができる場を設けたところ、順番待ができるほど、子供達に楽しんでもらえた。そういうこともできるはず。また、今はアミューズメントパークでは 3D 画像で飛び出す立体的な楽しませ方をやっている、ゴーグルをつけて鬼が飛び出してくるような映像を見せれば集客につながると考える。

三つ目は、現市長から伊賀線の南側へという話があったようだが、回遊型の観光を目指すのなら、市長の考えはもっともだと思う。今言われているふれあいプラザに、芭蕉翁記念館や美術博物館、祭り文化の施設を持ってくれば、様変わりした町の景色が見られるのではないと思う。

(祭り町関係者⑦) 新町でだんじりの囃子方に携わっている。

祭りに携わる人は、子供を含め、一つのチームとしてやっている。子供の人数は

減っているが、今は皆が祭りを楽しみながらやっている。そういった中で、だんじり会館の存在は、無くなると寂しいが、現状、費用が掛かるとか、場所が悪いというのはもっともだと思う。

秋は祭り日の 1 カ月前に囃子の練習をし始めるが、その時期からずっと祭りモードになり、町の人には祭り当日に向けて一体感を持っている。祭りが無ければ、町の人々の顔も分からないくらい、まち全体で繋がりを持てる場として、祭りの存在は大きい。祭りがあるから、外へ出て行った者も帰ってくるという話も聞く。観光客も 10 万人を超えるほどの大きなイベントである。また、春の入替についても、人の繋がりを途切れさせないための一つのイベントで、銀座通りを通過してだんじり会館へ運ぶという楽しみもある。道路を封鎖して迷惑が掛かっているが、そのことで町の人に知ってもらえる機会になるという意味では、だんじり会館の役割はあった。無くなるのは寂しいが、その理由でだんじり会館を残すのはおかしい。

代わりにゲートウェイ機能という考え方は、率直に良案だと思う。町にやって来る観光客が減っていると感じる。町に新しいだんじりの施設があれば、観光の面で、町を回遊してもらいし、だんじりを通じて伝統を知ってもらえる切っ掛けになるかもしれない。町の人にとっても、町にだんじりの施設があることで、常に祭りを意識し、伝統のある町に暮らしていることを意識することにつながる。新しい施設ができるなら、町のシンボルとして活用できれば良い。

(祭り町関係者⑧) だんじり町で構成している楼車会の会長を務めている。

この会議に先立ち、楼車会の 9 つの町で、だんじり会館の必要性を問うアンケートを実施した。集計結果は、9 町のうち 6 町が「どちらでもない」という回答だった。

先ほど、だんじり会館では何もイベントが無く、ただ展示物が並んでいるだけという印象があるという意見があったが、その理由をアンケート結果から挙げると、宣伝が少ない、目玉になるものがない、土産物売り場が狭く陳列方法が雑である、館内が暗くイメージが悪い、案内板が少ない、などといった内容であった。だんじり町から見れば、会館として経営努力が足りなかったのではないかと感じる。赤字になってからどうすべきかと町へ聞いてくるのも、何も努力をせずに卑怯だという声もあった。

また、にぎわい忍者回廊整備が進んでいる中、上野市駅より南側に置くのは、私は賛成である。だんじり会館は、建物は存続させ、伊賀市のお祭り会館のようにしてはどうか。大山田にもだんじりがあり、他にもユネスコ無形文化遺産に登録されたものなど色々なものを、一挙に紹介すればよい。現在の場所だと、踏切を横切ってだんじりの入替をしなければならないという制約や、交通の停滞、警察や行政にも色々と迷惑をかけていることが全部解消するような気がする。

(祭り町関係者⑨) 上野東町在住で、小さい頃からだんじりに乗った経験があり、現在は子供に囃子を教えている。

運営側になって初めてだんじりを維持していくことの大変さを実感した。子供は、その子の親や祖父母がだんじりに乗せたいという意向があるので人数が集まりやすいが、大人の囃子方は、その町に住む大人がどんどん減っている現状において、10年後、本当に祭りが出来るのかと不安に思っている。

また、町の長老たちからは、祭りのことを決める場では行政や商工会議所が主体になり、祭り町の間は、もしかすると置き去りにされていないだろうかという話をよく聞かされた。ユネスコ無形文化遺産登録後の開催日の問題も、日程を変更せざるを得ない状況があったかもしれないが、祭り町の人からすれば、腑に落ちないまま走ってしまった経緯があったのではないかと思うと、これから何かを決めていくにあたって、祭り町の意見も最初からきちんと聞いてもらいたいと思う。

だんじり会館については、35年も経ったのかという印象。数回足を運んだことはある。自分の町のだんじりが飾られているので、私自身はあの建物は、何となく誇らしく思っているが、ただ館内を1周して、2階に行って映像を観て終わってしまうのは、勿体ない。体験型の観光が主流になっている中、何か体験できる、目玉になるものがあれば良い。もっと違う打ち出し方があるのではないかと思う。土産物売り場は雑然としていて勿体ない。あのように色々な物をまとめて購入できる場所が案外ないので、しっかりと管理をすれば、町の人も購入する機会があるかもしれない。ブース代が高いので長い期間商品を陳列するのは難しいという話を聞くこともある。官民で取り組んでいるなら、もう少し考えてもらいたい。

また、お祭り会館のような施設は賛成する。先日も、文化会館で伊賀市と名張市の獅子舞のイベントが開催されたようだが、伊賀管内の獅子舞が一堂に会するのも、伊賀の文化の凄いところ。祭り全体が見られる会館は必要である。だんじりや鬼行列を見られる場所があれば回遊性にも寄与すると思う。

(祭り町関係者⑩) 魚町で囃子方を担当している。もともと祭り町で生まれ育ったわけではなく、7年前に子供がお囃子に参加するにあたり、私も参加することになった。どうせならと、2年前から一緒にお囃子をしている。他の皆さんとは違い、外の者の意見という立場である。

祭り町の子供が学校を早退し、祭りに参加している様子を見て、羨ましく思っていた。子供にとって、祭りはワクワクドキドキするものだが、深く関わっていない大人は、子供がいなければ祭りに行かないという意見を聞く。そういう意味で、だんじり会館は、皆に浸透するためのシンボルになり得なかったのは、少し残念である。

社会環境が変わってきた中で、担い手を続けるのは難しい。共働きの世帯が多くなり、子供は中学3年生になるまでやり続けなければならないという縛りが、ハードルになっている。誰かを誘うにも、そういう面で声を掛けにくいので、考え直す必要があるかもしれない。

カルチャーツーリズムの観点で、文化と観光は同じでなければいけないと思う。もちろん文化があつての観光なので、当然、観光を進めるには文化もきちんとやるべきである。そのような中で、今のだんじり会館と同じようなものを作ってしまうと、最新のものを導入しても、数十年後にまた同じ議論が巻き起こるだろう。だんじり会館の役目は、祭りを知ってもらうことである。祭りを知ってもらうには、演奏体験や鬼行列の体験があると面白い。先ほど話の合った獅子舞と一緒に、お祭り会館にしても良いと思う。伊賀市への誘客を促進させるには、他所とは違う体験ができることが必要である。今は「コト消費」から「トキ消費」に変化している。その日、その時、その特別な日にしか体験できないということが重要になってきている。そして、その体験を通じて、本祭りに誘客を図るための工夫や、リピーターを増やす工夫も必要である。例えば、過去にケーブルテレビの生中継に登場したことがある人を、数年後に顔認証の技術などを使って探し出すような仕組みも考えられる。

また、だんじり会館が町の人がお囃子の演奏ができる場になれば良いし、それだけでなく、ピアノ演奏などにも使えたり、祭り当日の写真や絵のコンテストを行う場としても活用できると良いと思う。だんじり会館がシンボリックな存在になれば、観光客はもちろん、町の人にも訪れることができる。さらに、そこで皆が集まって何かができれば、人と人が交流できる場になっていくと思う。

(祭り町関係者⑪) 中町で囃子方を担当している。だんじり会館のあり方に係る審議会が4回行われていたことを知らなかった。祭り町の声을聞かずに、ここまで議論が進んできたのかとも思うし、だからこそ、今、こうして町の人が集まっているのだとも思う。

だんじりは、これまで祭り町が守ってきたが、これからは、町だけでなく、伊賀市全体で守らなければならない祭りになっている。町の子供が少なくなり、祭り町以外から協力を得なければ祭りを維持できないからである。しかし、継続的に関わってもらいたいが、伝統であるからこそ小学校から中学校まで縛られるので、声を掛けづらい面もある。逆に言えば、実際、だんじり町に憧れてだんじりに乗りたいという子供や、子供にだんじりに乗る経験をさせたいという家族がいる。今は町それぞれで知人を頼って人を集めているが、将来、新しく施設が建て直されれば、体験もできながら、人材バンクのようなこともして欲しい。

だんじり会館は、だんじりの展示だけなので鬼町の人は興味がないという話ではなく、鬼の面や衣装を着けられる体験のように、会館で皆が体験できる事を作

ることが大事である。

だんじり会館は良い建物だと思うが、如何せん、祭り町の中心から離れているのはネックである。だんじり入替を手伝った時、祭りの日以外にもだんじりを出さなければと負担に感じることもある。自町でも 1 年間同じことをやっているで、遠方の親戚が来たとき町を案内する以外に、わざわざお金を払って見に行くことはない。だんじり会館が伊賀線より北にあるのは距離があるので、もう少し南の方にコンパクトなものがあれば良いと思う。

この委員会に出席してお祭り会館の意見を聞いて、良いアイデアだと思った。近隣の町の珍しい祭りも見られるようになれば良いし、変わったものが見られるなら、見に行こうとなる。そして、それに関してきちんと宣伝・PR をすれば、会館もいい方向に進んでいくと思う。自分たちは自分たちの祭りを大事にして、楽しんでいきたいと思う。

(祭り町関係者③) 一つ意見を付け加えたい。だんじり会館は、伊賀市内の全てではないが、小学校の遠足の立ち寄り場所になっている。会館のスタッフはなかなか説明できないということで、何回か話をしに来て欲しいと言われ、行ったことがある。地元の小学生の郷土学習をする場として、実物を見て、話を聞き、そして祭り当日に本物を見て学び感銘を受けることで、郷土愛の醸成につながる。今後、どうなるか分からないが、そうした施設は、子供たちの学びの場としても必要だと思う。

(小林委員長) 皆さんありがとうございます。一通り皆さんからご意見をお聞きできたが、もう少し早い時に話を聞けると良かったのかと思う。

次に、委員の皆さんから質問や意見をうかがいたい。

(福田副委員長) 祭り町の皆さんが最初から意見を聞いて欲しかったと言われるのは、その通りだと思う。委員会の議論に、中村委員は入ってもらっていたが、このような機会を持てたのは、本当に良かった。委員会で議論をしてきたことと、祭り町の皆さんのお考えは、大きな違いはなかったと感じている。

祭り町以外の立場という方にお尋ねするが、祭りに憧れを持っている祭り町以外の人はどうして祭りに関わることになったのか、その辺りのお話をうかがいたい。

(祭り町関係者⑩) 自分の店が魚町にあるので、いずれにしても関わらなければいけない状況になった。子供が入ったので、曳き手として携わってきたが、町に店があるので、もっと関わりたいと思うようになり、お囃子をすることになった。実際に魚町に住んでいる子供は一人しかいなくて、その殆どは違う町から来てもらっている。子供を通じて呼びかけたり、子供の保護者を通じて知人に声をかけることで、祭りに携わる人を集めている。

(福田副委員長) 私は県の職員であるが、曳き手として 20 年来参加している。県では職

員全員に呼びかけられるので、遠方に転勤になっても曳き手として参加したいという人もいる。憧れを持っている人が参加できるように、しっかりと検討することで、何か方策があることを、あらためて感じた。

(菊野委員) 祭り町の人々の貴重な意見や、新しい具体的な機能の要望について、話が聞けて良かった。私は、だんじり会館の「あるべき姿」より「今後求められる姿がどのようなものか」が大事なのであって、「あるべき姿」と「求められる姿」があまり乖離してないほうが良いと思っている。それも、今後委員会の論点の一つとして、検討していきたい。

また、だんじり会館のオープニング式典に出席した経緯もあり、自分自身にとっても思い入れのある施設である。この委員会にはうえのまちまちづくり協議会会長として参画しているが、指定管理者である伊賀上野観光協会の関係者の立場としては、だんじり会館の運営に非常に苦慮している。指定管理料だけでは運営ができないため、忍者博物館の収益から補填している事実もあるので、その点はご理解いただきたい。

また、「文化か観光か」ということを、なぜ議論するかについては、おそらく、「文化だ」となれば、伊賀市ではどうして観光戦略課が事務局で、どうして文化振興課ではないのかという話になるだろうし、「観光だ」となれば然るべきという話である。しかし、祭り町の皆さんは、文化か観光のどちらでもなく、両方だという意見であった。今後の運営について、皆さんの意見を踏まえて検討していきたい。

最後に、繰り返しになるが、「あるべき姿」と「求められる姿」は協議を進めながら、深めていけると良いと考える。

(後藤委員) 祭り町の皆さんの話を聞いて、人とのつながりという言葉が印象に残った。

「人を呼ぶには人」と言われるが、祭り町の何名かがおっしゃっていたように、だんじりの曳き手であるその人自体に興味が集まるので、そこをしっかりと伝えていくのがポイントだと思う。ハード面は除いて、ソフト面だけの話をするが、だんじりの担い手の考えやその人の生活文化を伝えていくことに対して、人が集まったら十分に取り組みができると感じた。

もう一点は、教育の観点からで、文化の成り立ちは違うが青森県のねぶた祭では、祭りが終わった日に、翌年の準備を始める。その時、地域の中学生や高校生は学校の中でねぶた絵を描いている。ねぶた祭の文化の継承が、教育現場の中に組み込まれている。そのような取組を通して、地域の子供たちが誰も漏れずに文化に触れられる機会をつくることで、受け継がれ、地域愛を育んでいくことは、あらためて大事だと感じた。

(重藤委員) 私の住む青山地区では、上野天神祭の開催日は休日ではないので、祭りに来ることが無い。今回、委員に就任して、初めて祭りやだんじりのことを勉強させ

てもらった。

伊賀市内にも色々な祭りがあり、青山地域では獅子舞がある。上野天神祭と同じように子供が少なくなり、今後どうするか、古くなった道具を新調したいがどうするかといった、同じような悩みがある。そのような中で、行政がだんじりのある祭り町に手厚く支援をしたり、市の予算の持って行き方について、他の地域で祭りに携わる人から不平不満が出ないようにやっていただきたい。

お祭り会館の話があったが、青山地域の小さな祭りの獅子舞であっても、どこかで披露できる場所があれば、他地域の祭りに触れられるし、色々な祭りが継承していけると思う。だんじり会館だけでなく、他の地域のことも含めて考えていきたい。

(山口委員) 貴重な話を聞かせてもらった。委員長が言ったように、祭りを継承している祭り町の皆さんの話を、最初から聞いていたら良かったと思う。

やはり、何かを見てもらう場や拠点は必要だと思う。祭り町の皆さんから、にぎわい忍者回廊整備事業が進んでいる中、町なかにそういう場所があれば、観光客も行きやすいし、地元の人でも有効活用できるという意見もあったので、それは一石二鳥だと思う。

また、祭りを次世代に継承していくにあたり、曳き手・囃子手の確保についてもだんじり会館のあり方に関わってくることだと、皆さんの話を聞いてあらためて感じた。

(中村委員) 私の言いたいことは、すべて祭り町の人達が言ってくれたので、付け加えて言うことはない。先ほど、楼車会でアンケートを実施したという話があったが、アンケート集計結果は委員の皆さんに配るので、これからの議論の参考にしてもらいたい。

(小林委員長) 非常に深く、色々なご意見いただいた。祭り町の皆さんからの貴重な意見をしっかりと踏まえながら、我々はこの後検討を進めていきたい。

だんじり会館に関しては、開館後 35 年が経ち、一定の役割を果たしてきたが、祭り町皆さんであっても、鬼町の方は興味がない。或いは、だんじり町の人でも入れ替えの時にしか行かない、わざわざお金を払っていく所ではない。という話があった。せっかく会館があったにもかかわらず、十分な機能を必ずしも果たし切れていない、発信力や企画力が足りていないと、あらためて感じた。

さらに、今後どうしていくかは、祭り町の皆さんから話が合ったように、担い手（子供）が減少していく中、祭りをどのように維持すべきか、そのための機能は伊賀市としてしっかりと持たなければいけない。それが、だんじり会館という館かどうかは、もう少し検討が必要である。祭り町の負担だけではなく、全市的にも人口は減少していく中、市の規模に対して、過大に施設を持っていると、将来の世代の子供たちに負担を押し付けることになってしまい兼ねない。その辺も

考えつつ、市の施設として望ましい姿を、未来のことも考えながら検討していかなければいけないとあらためて感じた。皆さんの貴重なご意見を整理し直して、このあとの討議にしっかり生かしていきたい。取りまとめは以上とし、進行を一旦事務局にお返しする。

(事務局) 祭り町と委員会の意見交換はこれをもって終了する。

3 開会あいさつ

伊賀市産業振興部長

.....

【第2部】

1 協議事項

(1) 祭り町関係者との意見交換を踏まえた共通認識の確認

(小林委員長) 第2部では、追加資料という事で、棲車会で行ったアンケート調査結果を見ての感想をいただきたい。また、祭り町の皆さんとの意見交換を踏まえて、委員会としての共通認識を確認、擦り合わせをしていきたい。先日我々が提出した中間答申の内容と今日うかがったご意見を比較して、それほど大きな違いはなかったと思うが、相違点や追加すべき内容があれば発言いただき、最終答申に反映していきたい。

(後藤委員) 祭り町の人、建物のあり方や場所を変えてはならないという意見は少なかった。しかし、まだ明確になっていないのは、あの場所である必要があるのかという事と、どのような機能が良いと思っていのかである。皆さんの認識が少し違っていると思った。あそこに求めるものは、ソフト面とハード面について固めていかないと議論しづらいと感じた。

(小林委員長) その点は、前回、後藤委員から課題としてもらっていた、だんじり会館の機能について事務局から説明いただいた方がよいと思う。次の報告事項になっているが、先に説明をお願いしたい。

(事務局) — 資料の説明 —
資料3

(小林委員長) どのような機能が期待されているのか、それが果たされているのか、○×で、やっているかやっていないかを見取り図的に整理していただいた。これを踏まえて、現状をどう評価するか、今後議論していければと思う。今の事務局の説明に対して皆さんから質問あるか。

(後藤委員) 次回、第6回の委員会の議論になってくると思うが、効果と言う点において、取り組まれている形が地域の方々に認知されているのか、地域にとって最適なのかという観点と、費用的な観点、ほかにもあると思うが、この2つの観点について次回議論が出来ればと思う。

(小林委員長) では、最終答申に向けて、盛り込んでおきたい点、認識のずれを感じたところをご発言いただきたい。

(福田副委員長) 菊野委員から発言のあった、「あるべき姿と求められる姿が乖離しない方が良い」という内容を、もう少し具体的に説明いただけないか。

(菊野委員) 「あるべき姿」というのは我々の議論の中で出てきたものだが、「将来的に求められる姿」もそうなのかということである。今回は祭り町からご意見をいただいたが、では、観光客はどんな事を期待しているのか、祭り町以外の伊賀市民がどう思っているのか、だんじり会館や上野天神祭の運営について将来的にこうなればよいという観点で出てきた意見と擦り合わせて、最終答申とあまり乖離が無いほうが良いのではということである。視点の置き方の問題である。具体的なことはこれから皆さんと議論していけばよいし、色々な人のご意見も聞いていければ良い。

(福田副委員長) 祭り町から話を聞いて気になった事は、町なかから現在の場所に距離を感じるという事である。何か距離感を持っている印象を受けた。体験がなされていないという話だが、会館と祭り町の間で意見交換をする仕組みがあったのかどうか。

(事務局) 資料を纏めるにあたって、指定管理者の担当者に、来館者の増加につながるイベントの開催などの取り組みについて、率直な意見を聞いたところ、人的、費用的な理由で実施に至らなかったとのことである。費用的に余裕があれば、体験であったり、祭り町の人を講師にお呼びして講座などの実施をしてみたかったようだが、そのような理由で断念せざるを得なかったと聞いた。

(小林委員長) 質問なのだが、指定管理者になったのはいつ頃か。開館当初からではないはず。指定管理者に移行する前、市が直営していた時から、そういう事を行う仕組みが出来ていないまま、指定管理者に移行してしまったのかもしれないがそこが大事なところではないか。要は市が管理していた頃も、祭り町の人と対話をして、企画を練ってということはあまりしてこなかったのだろう。

(事務局) 当時のことを確認してはいないが、管理委託を行っていた際も市の関わりが不十分だったのではないかと推測する。指定管理者制度への移行時期は、平成 16 年の合併後まもなく、平成 18～19 年頃で、他の市の施設が多数移行していたので、おそらくその時ではないかと思う。

(福田副委員長) だんじり会館には当初から、菊野委員や中村委員も関わっていると思うが、あんなことやこんなことも出来るのではないかとすることを、市に任せてしまうと、担当職員は人事異動で人が代わってしまうので、なかなかその思いを求めることは難しい。地域にとっても大切な施設なので、地域と乖離してしまうと、その思いが伝わらないと。将来を見据えて、だんじり会館でなくても良いが、その機能は必要とおっしゃっているので、どのような機能があれば良いのか、深く

関わられている中村委員から教えて欲しい。

(中村委員) ご質問の答えではないかもしれないが、指定管理者の話になるが、上野文化美術保存会にも指定管理者にどうかという話があったと思う。しかし、法人ではないし、力量もない、町は纏まっていないしということがあった。しかし、正直に言うと、だんじり会館に対してそっぽを向いていたということがある。しかし、何度もいうが、コロナ渦で祭りができなかった時、だんじり会館の春や秋のだんじりの入れ替え時、鬼町も含め祭り町の皆が集まった。それを機に、だんじり会館の存在意義が見直されている。収入的なことや何があるとかは別だが、そういうことは身に染みて分かっている。

そして、最近になって、突然、降って湧いたような話が出てきた。だんじり会館が祭り町と離れたところにある、或いは線路の南か北かという話は今まで無かった。それと言うのも、去る2月17日に上野西部地区住民自治協議会の会議があって、旧南庁舎の改修、忍者体験施設の整備、桃青の丘に予定される美術博物館、上野ふれあいプラザの問題が大いに議論になった。その次の日にこの中間答申の記者会見があって、その後の座談会で市長が少し言ったことが伝わったのか、そのあたりから急に線路の南か北か、ふれあいプラザがどうのとか、今回のアンケート結果にもそのことが出てきている。この17日から22日までの間で、なぜか急に、線路の南、祭り町の中という話が出てきた気がする。

(小林委員長) 美術博物館の話など、市長の発言が色々ところで独り歩きをしていて、市民の中に憶測があるのだろう。それはそれとして、これまで積み重ねてきた議論や、今日、祭り町の人からお聞きした話を踏まえて、最終的にだんじり会館のあり方等の、「等」が意味する中身について、だんじり会館だけではなく、だんじり文化をどう継承していくかも含めて、しっかりと取り纏めていきたいなと思っている。最終答申にこれだけは書き入れたいというものがあればご発言を願いたい。

(重藤委員) 全体として変わってきた部分や固まっていない部分があり、何とも意見しづらい。

(小林委員長) 最終的に落としどころが良く分からないということだと思う。その中で、打ち出すべき方向性についてご発言いただきたい。

私としては、祭り町の人が求めているものは、本日、ある程度おうかがいしたが、市の財産でもあるので、祭り町の人だけの思いに流され過ぎてもいけない。一方で、祭り町以外の伊賀市民も納得いただけるものでないといけない。この委員会で決めたことが未来の伊賀市に負担がかからないように、将来の人たちに良い方向性を決めてくれたと思ってもらえるようにしなければならないことを念頭に置き、意見集約をしていきたい。盛り込んでいくべき視点があれば、いかがか。後日でよいので、個別の意見は事務局に送ってほしい。

2 報告事項

(1) 次年度のスケジュール

(小林委員長) 続いて、3のその他の項に移る。次年度のスケジュールですが、3月は会議がない。今年度はこれで終了し、次回第6回は次年度に入ってからになる。次年度のスケジュールについて事務局から説明願いたい。

(事務局) 当初、7月に最終答申を行う予定であったが、最終答申が早くに取りまとめられた場合は、市長への最終答申の時期を少し前倒ししたい。次年度の委員会の日程調整は、あらためて、委員の皆さんにお願いする。祭り町との意見交換を踏まえ最終答申に盛り込むべき内容は、3月16日までに資料2に記載した回答フォームで報告してもらいたい。

(小林委員長) 説明に対して質問はあるか。

(中村委員) 4月20日はだんじりの入れ替えでよいか。雨天の場合は1週間後か。

(事務局) その通りである。

(福田副委員長) 資料2については3月16日に意見を送付、資料3は意見を述べずに第6回の会議で議論するという事でよいか。何をすべきかメールで知らせてほしい。

(事務局) 3月16日までにお願いしたいのは、追加すべき論点であったり、第6回でと書かせてもらっているものも、最終答申案に盛り込んでいく視点が必要であれば、3月16日までに送っていただけたら、事務局の方で最終答申案に反映していきたい。もう少し論点を整理して、あらためて各委員の方に送付させていただく。

(小林委員長) 回答フォームのQRコードではなく、メールでいただけると有難い。

また、機能の検討については、現在のだんじり会館でされている事だけでなく、だんじり会館以外の施設も含めて、どう機能分担や棲み分けをしているかも含めて考えていけたらと思う。単純に評価A B C Dとはならないと思う。

祭り町の方からの意見や議事録を、回答依頼と一緒に送ってもらいたい。

(事務局) 1週間をめどに纏めたいと思うが、委員の皆さんにはもう少し考える時間があった方がよいと思うので、締め切りはあらためてお知らせしたい。

(小林委員長) よろしく願います。他に質問はどうか。

(委員) 発言無し

(小林委員長) これで委員会を終了する。

以上